

施設名	大間港								
所在地	新潟県 佐渡市								
管理者等	株式会社ゴールデン佐渡								
施設種類・分野	港								
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>佐渡鉱山は、明治から大正、昭和初期にかけて機械化・近代化を推し進め、その隆盛を極めた。明治中期、鉱山の近代化を推し進めるため、生產品の搬出だけでなく、生産に必要な物資、溶鉱炉や発電所等の燃料に用いる石炭の搬入用として大間港が築港された。(文献2より)</p> <p>現在も、コンクリート普及以前のたたき工法の護岸や、昭和10年代の鉱山大増産期に新設されたクレーン台座、ローダー橋脚等の遺構が現存しており、明治～昭和期の旧佐渡鉱山における生産物・物資の搬出入施設の変遷を示している。(文献3より)</p>						<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">(文献1より)</div>		
築造時期	明治中期		時期詳細	明治25年					
関連人物	服部長七								
関連企業	—								
トピックス (特徴的エピソード)	<p>・大間港は、服部長七による人造石(たたき)工法が採用されている。この人造石工法はその後明治30年代に全国的に使用され、コンクリート工法が普及・定着するまでの工法として、護岸はじめ水路・堰堤・水門等の大規模土木構造物に広く応用された。(文献2より)</p>								
歴史的な遺産等の指定の有無等	○	<input type="checkbox"/> 選奨土木遺産(土木学会) <input type="checkbox"/> その他の指定・認定	○	文化財(文化庁)	その他	近代化産業遺産(経産省)	○	世界遺産(ユネスコ)	—
	史跡名勝天然記念物(佐渡金銀山遺跡)								
その他 (関連資料、文献)	<p>文献1:土木学会HP「大間港の解説シート」 (http://committees.jsce.or.jp/heritage/node/853)</p> <p>文献2:土木学会関東支部HP (https://www.jsce.or.jp/branch/kanto/04_isan/h27/h27_2.html)</p> <p>文献3:佐渡市HP「佐渡の文化財」 (https://www.city.sado.niigata.jp/z_ot/cultural_property/property_c/1500/1501-</p>								
管理者等のHP (URL等)	—								